

オリーブの会通信

2024年4月20日第41号 (通巻47号)

オリーブの会

大阪府豊能郡能勢町平通101-453

tel/fax:072-737-9454

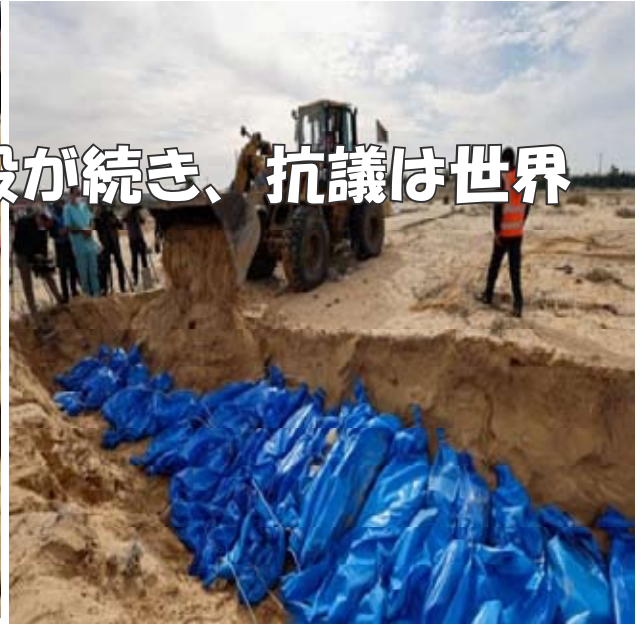
mail: oribunokai@gmail.com

facebook: oribunokai

مجموعة الزيتون



イスラエルによる虐殺が続き、抗議は世界に拡大



イスラエルのガザへの侵攻は200日を超えた。虐殺されたパレスチナ人は3万4千人を超えた。負傷者は実に7万人を超えている。行方不明者は、7000人以上になっている。死者の半数以上は子供と女性であり、イスラエルが撤退した後の北部のアルシファ病院や中部の病院の敷地では、何百人の集団墓地が発見されており、死者は後ろ手に縛られ、後ろから撃たれていたものもあった。

イスラエルはそれを否定し、ガザの人々が埋めた者を捜査のために掘り返したものだ、いつもの通り、ごまかした。しかし、事実は否定することはできない。イスラエルはハマスの一掃のためとしているが、殺害し、拘束しているのはほとんどが民間人である。

一部の報道によれば、「ラベンダー」と名付けられたAIシステムで攻撃対象を特定しているといわれている。このシステムには、3万7千人のハマスの容疑者が登録されており、それを識別して攻撃しているといわれている。しかし、そのシステムでは一人のハマスの容疑者に対して百人の民間人の殺害が許可されている。イスラエルのAIによる攻撃は無差別攻撃とほとんど同じである。また、民間人を一挙に拘束し、拷問などを使って、ハマスの容疑者を割り出すなど常軌を失っている。

また、西岸でも同様に武装勢力を一掃するとして、容疑者の家族を逮捕し、家を爆破し、その地域のインフラ

を全面的に破壊することが行われ、無差別に殺害するなどが行われている。

ラマダンが始まっても、停戦には至らず、虐殺と飢餓状態が続けられている。停戦交渉は、イスラエル側の交渉拒否で、交渉自身が成立しない事態が続いていた。ハマスは、捕虜の解放の条件に全面的な停戦とイスラエル軍のガザからの撤退を求めており、停戦を一時的なものとして、ハマスの一掃まで戦闘を続けるというイスラエルの立場の違いを埋めることはできていない。

イスラエル側では、半年を過ぎても、人質の解放は実現せず、ハマスの一掃も実現できず、戦闘だけが長引いていることへのイスラエル市民の批判は、ネタニヤフの退陣を求める声となっている。ネタニヤフが首相である限り戦争は終わらないこと知っている。もちろん極右の市民は、戦争の継続とガザのパレスチナ人の一掃をもとめて、政権を支持している。ネタニヤフ政権は、停戦交渉がうまくいかないことをハマスのみだけでなく、仲介にあたっているカタールにまで批判を向けた。ハマスがカタールに事務所をもっていることでハマスを支持している批判したが、カタールは、ハマスの事務所をおくことは米国との合意のもとに行われていると反論した。

米国は、イスラエル軍のラファ攻撃を否定し、人道援助を増やすように求めたが、イスラエルの戦争目的は支持

しており、国連安保理での停戦決議に反対してきたが、4月に入って、停戦決議に拒否権を行使せず、欠席で臨んだ。しかし、それでもイスラエルは停戦をしようとしていない。

米国内では、ガザでの大虐殺に、米国の関与に反対する運動が各地の大学などへ拡大し、さながら、ベトナム反戦運動のような状態になっており、パレスチナを支持する学生や職員に対する弾圧が拡大している。バイデンはこの抗議行動を反ユダヤ主義としか見ていない。そして、米国の下院で、ウクライナ、イスラエルの軍事支援の予算が可決した。これは、さらににイスラエルの虐殺を支持するものとしてある。イスラエルは、戦争継続の条件は与えられている。

戦火は、中東全域に拡大する危険性があった。イスラエルはシリア、レバノン領土でのヒズボラ、イランの革命防衛隊に攻撃を行ってきたが、ついに、4月〇日、ダマスカスのイラン領事館に攻撃を行った。この攻撃は一線を越えるものであり、イランの領土を直接攻撃するのと同じであった。当然イランはイスラエルへの報復攻撃を行った。しかし、イランは大規模に攻撃したが抑制されたものであった。それに対するイスラエルの出方が注目されたが、米国などが、エスカレートすることを恐れているイスラエルを抑えたようであった。しかし、国連安保理では、米国がイスラエルのイラン領事館攻撃を非難する決議には、拒否権を行使し、イランの攻撃を非難し、制裁を課すなど行った。ここでも米国のダブルスタンダードが示された。イランには、自衛権はなく、イスラエルだけにはあるようだ。イスラエル政府の一部には、反イランでのアラブのとの連携が作れることへの期待が生まれていたが、ガザへの侵攻以前と状況は違っている。流星のアラブの反動諸国も、ガザでのパレスチナ人に対する大虐殺を目の前にして、イスラエルとの関係の正常化をする勇気はないだろう。

イスラエルが、飢餓を武器として使うために、パレスチナ難民の援助を行ってきたUNRWAに対する攻撃を行い、12人の職員が10月7日に加わっていたことをでっち上げて、UNRWAへの米国をはじめとする西側諸国の資金の拠出が停止されることになった。このでっち上げに対してUNRWAは、独立した調査をおこない。その中立性がゆるぎないこと、イスラエルはいまだに12人の職員がハマスの攻撃に関与したという証拠を提出していないと批判。UNRWAへの資金拠出を再開する国が出てきている。イスラエルの目論見は破綻してきている。いまだに、ガザへの援助物資に対する妨害は続けている。イスラエルは、その間も西岸での大規模な攻撃を行い、

パレスチナの町の破壊と土地の収奪を行っている。西岸での死者は455人となった。ガザに注目が集まっている間に占領軍と入植者たちは、入植地を拡大し、パレスチナ人の土地を奪い、行動の自由を制限し、西岸の経済を破壊している。実質的な併合をすすめている。

ますますイスラエルがハマスを掃討を口実にして、パレスチナ人に対する民族浄化を行い。ガザ、西岸を直接の支配下に置こうとしていることは明確である。イスラエルのシオニストたちは、神が与えた土地という神話に基づいて行おうとしている。彼らが虐殺に平気なのは、彼らは人間でないものと闘っていると考えているからである。このような考えが、現代社会に通用させてはならず、民主主義と人権を唱える米欧が盲目的に支持していることが恐ろしい状況である。シオニストの嘘をそのまま信じ込み、パレスチナ人に対する虐殺を否定しないということになっている。

しかし、このような考えは、米欧の社会においても、イスラエルにおいても否定する声が上がっている。こうした世論の力で、欧米を変え、イスラエルを変えること以外に現状を変える方法はない。ベトナム反戦運動や、南アフリカのアパルトヘイトに反対する運動のように

国連パレスチナ救済機関の調査報告

国連パレスチナ難民機関（UNRWA）の調査では、問題は依然としてあるものの、同機関が人道中立原則の順守を確実にする強固な枠組みを備えていることが判明し、一部のドナーに資金凍結の見直しを促す可能性がある報告書で明らかになった。

月曜日に発表された報告書はまた、イスラエルは、3月に提出された職員リストに基づいて、かなりの数のUNRWA職員がテロ組織のメンバーであるという主張を裏付ける証拠をまだ提供していないと述べた。

ガザ戦争の引き金となったハマスの10月7日の攻撃にUNRWA職員12人が参加したとイスラエルが主張したことを受け、国連は2月、元フランス外相カトリヌ・コロナをUNRWAの中立性審査の責任者に任命した。

イスラエルは3月、UNRWA職員450人以上がガザテロ組織の軍事スタッフであったと主張し、非難を強めた。

イスラエルの国連使節団は、コロナ主導の見直しに関するコメント要請にすぐには応じなかった。

別の調査で、国連監視機関はUNRWA職員12人に対するイスラエルの申し立てを調査している。

国連事務総長のアントニオ・グテーレス報道官は、勧告を受け入れたと述べ、UNRWAは「地域のパレスチナ難民にとっての命綱」であるため、UNRWAを積極的に支援するよう各国に呼び掛けた。

報告書は、イスラエルが3月に提供されたUNRWA職員リストに基づき、「かなりの数」のUNRWA職員が「テロ組織」のメンバーであると公的に主張したと述べた。

「しかし、イスラエルはこれを裏付ける証拠をまだ提供していない」と述べた。



「出て行け、動物たちよ」：アル・シファ病院での虐殺はどのように起こったのか

ガザ市のアル・シファ病院襲撃の余波 2024年4月1日 写真 ハレド・ダウド アパ 画像 | MR Online 2024年4月1日、ガザ市のアル・シファ病院侵入後の様子。(写真: KHALED DAUD / APA 画像)

初版発行: Mondoweiss, 2024年4月11日、Tareq S. Hajjaj 著 (Mondoweiss による詳細) | (2024年4月12日投稿)

アル・シファ病院での虐殺の犠牲者として残されたのは、カラスに食べられた人間の頭部、身元不明で腐敗した体の一部、積み上げられて共同墓地に埋められた何百もの死体だけである。その陰惨な光景はまるでディストピア映画のようなもので、完全破壊に終わったガザ最大の病院の2週間にわたる包囲の産物だった。

アル・シファの殲滅完了後、イスラエル軍は、この作戦が開戦以来最も成功した作戦の一つだったと発表し、医療施設内で数百人のハマスとパレスチナ・イスラム聖戦メンバーを逮捕したと主張した。しかし、誰も尋ねようとしなかった疑問は、ハマスとPIJからのこれほど大量のいわゆる「作業者」が残っていたこと、この場所が以前に一度軍によってすでに搜索されていたこと、そしてそれ以来、ガザ市は軍に占領され続けた。

モンドワイスはアル・シファでの事件の多くの生存者と連絡を取った。彼らのほとんどは話すことを拒否し、自分の身元を暴露することを恐れていました。少数の人々は、自分たちの証言がイスラエル軍の標的となり、その後殺害されるのではないかと恐れ、匿名を条件に受け入れた。モンドワイスが収集した証言に照らして、何が起こったのかについて別の状況が浮かび上がります。

諜報漏洩

軍の侵攻が始まるほんの少し前になんとか病院から逃げ出したある若者は、病院には確かにハマスやパレスチ

ナイスラム聖戦関係者の職員が何百人もいたが、その中には軍の作業者はいなかったと語った。彼らはガザ政府の民間部門の職員で、民間防衛隊員、警察、国内治安機関、内務省の職員、地方自治体の他の部門の職員などが含まれる。アル・シファは戦闘から比較的安全であると考えられていた数少ない残りの場所の一つだったため、彼ら全員が公務員の給料を受け取るためにアル・シファに集まっていた。

「専門外科の建物には、地上で活動する政府機関の事務所として機能する部屋がありました」とこの青年(以下、「Z」と呼ぶ)はハマス政府の民間機関について言及した。

Z氏はまた、軍以外の仕事に就いている多数のPIJメンバーも給与を受け取るためにそこにいたことを認めた。

[PIJ] 運動の事務所である別の建物があり、運動に雇用されている男性たちはそこに給料を受け取りに行きました。

「これらの従業員の誰もお互いに会ってから長い時間が経っていました」とZ氏は説明しました。

だからこそ、彼らは皆医療施設内でおしゃべりをし、お互いの近況を報告していたのだ。

イスラエル軍はこの集会について、アル・シファ内部の両組織から多数の「テロ作業者」に関する確認済みの諜報報告を入手したと説明し、襲撃後、900人の「容疑者」を逮捕し確認したと発表した。そのうち500人は「テロ作業者」だったと発表する一方、さらに200人の「武装集団」を殺害し、その中には「ハマスとパレスチナ・イスラム聖戦の最高司令官」も含まれていたと発表した。

包囲が始まります

Zはモンドワイスに、攻撃の数分前に軍の車両と戦車が病院に近づく音を聞いたと語った。彼と同僚も給料を受け取るためにアル・シファに到着していた。

「車両の音を聞いたとき、私は同僚に、彼らが病院に向かっているのではないかと思い、すぐに出発しなければならないと言いました」とZさんは語り、ハマス政府に雇用されている者はイスラエルから指名手配されていると説明した。彼の同僚は軍隊が近くの地域に侵攻しているのではないかと信じて聞く耳を持たなかった。

おそらく工業地帯に向かっているのだと彼は言いました。

最初、Zの同僚は立ち去ることを拒否しましたが、戦車の音が近づくと、二人ともすぐに立ち去ることにしました。二人とも軍人の経歴のない民間人であったが、ハマス運動のメンバーであった。

数分後、侵攻が始まりました。彼らは戦車が敷地を取り囲み、クアッドコプタードローンが頭上をホバリングして到着するのを目撃した。一瞬のうちに、アル・シファ全土は陸からも空からも包囲された。

なんとか敷地内から逃げ出したもう一人の生存者誰がこの敷地に集まったかに関する情報の大部分は、情報提供者、協力者、イスラエルの潜入スパイによってイスラエルに伝えられたという。

「侵攻の夜、アル・シファの入り口にはいつも2人の露天商が座っていた」と生存者はモンドワイスに語った。

そのうちの1つは水を販売し、もう1つは缶詰食品を販売しました。侵略が起こったとき、二人の商人は自らが兵士であることを明らかにした。彼らは拳銃を取り出して他の兵士とともに病院に入り、行き先を指示した。彼らは長い間そこにいたので、すべてがどこにあるのか知っていました。

この医療施設には、産科病棟、専門外科の建物、心臓病棟などのいくつかの建物がありました。兵士たちが敷地内に入ると、全員が建物から避難するよう命じられた。スピーカーを搭載したドローンが軍の命令を放送し、人々に外に出て中庭に集合するよう告げた。

「ドローンは『出て行け、動物たち』と言いつけた」とZさんはモンドワイスに語った。

医師と公務員容疑者の処刑

全員が建物から出ると、軍は群衆をグループに分け始め、各グループに異なる色のプラスチックのブレスレットを着用させた。兵士たちは、これらのブレスレットは狙撃兵に彼らの動きを警告するシステムに接続されていると語った。黄色は病院職員や軍が民間人とみなした人に与えられ、赤は患者、負傷者、切断者、障害者など自力で動けない人々に与えられた。壊れた手足。

軍はハマスやPIJに所属している疑いのある人々も集めた。彼らにはブレスレットは与えられなかったが、負傷者や病院スタッフから引き離され、別の建物に送られた。

3番目のはるかに大きなグループは、病院職員の一部に加え、敷地内に避難していた数千人の避難民全員に病院からの退去を命じられた。医師を含む一部のスタッフは退社を拒否した。彼らが軍の命令を拒否した場合、彼らは議論することなく即座に処刑されました。

その後、軍はハマスとPIJのメンバーと従業員の容疑者グループから膨大な数の男性を連れ出し、中庭の中央に集めた。その後、それらを次々と実行していきました。虐殺が終わると、軍のブルドーザーが数十の死体を積み上げ、砂の中を引きずって埋めた。

これが進行中、他の兵士たちは最初の命令が出されたときに避難を拒否した人々を探すために敷地内のさまざまな建物を襲撃した。彼らは見つけた者を容疑者とみなし殺害した。

病院内には抵抗して発砲しようとした者もあり、その中には拳銃を携行した警察官も含まれていた。その数は少数であり、彼らの抵抗は彼らを救うことはできませんでした。彼らは抵抗を示さなかった人々とともに殺されました。

ジャーナリストが病院で撮影しソーシャルメディアに公開された動画には、アミラ・アル・サファディと名乗る女性医師が何が起こったのかを説明する様子が映っている。

「攻撃初日の後、私たちは午前2時に驚きましたが、軍隊が侵入したらそこから出ないよう命令されました」とサファディ博士は言う。

そして2日目、警察は私たちにブレスレットを渡し、私たちがそれを着用しなければならないこと、着用せずに建物から出た者は即時に殺害されることを強調しました。

「私たちは4つの異なる建物に送られました」と彼女は続け、他の多くの医師や看護師が患者と一緒にいたと説明しました。

負傷した患者約16名が治療できずに死亡しました。

軍がアル・シファから撤退するまでに、敷地全体はほとんど破壊され、瓦礫と焼けた建物と化した。

「パレスチナ史上最大規模の虐殺」の一つ

ユーロ・メッド人権監視団は、アル・シファでの虐殺はパレスチナ史上最大規模の虐殺の一つで、少なくとも1,500人が殺害され、そのうち約半数が女性と子供だったと推定していると述べた。同組織はまた、少なくとも22人の患者が病院のベッドで銃撃されたことを確認して

おり、一方、病院に避難し、南方への避難を強いられた避難民の数は推定2万5000人に上ると推定されている。さらに、アル・シファ近郊の住宅1,200戸が破壊された。

アル・シファ作戦の戦略的・軍事的重要性と、同作戦が逮捕・殺害したとされるハマスとPIJのメンバーの数について軍が主張したにもかかわらず、北部G州の医療システムを破壊するという作戦の意図された目的に影が薄くなってしまった。すでに悲惨な人道状況をさらに悪化させます。化合物全体が使用に適さなくなりました。無数の遺体が安置されていた遺体安置所さえも焼き払われた。

アル・シファでのイスラエルの「作戦」は確かに成功し、その成功によりガザ最大の病院が閉鎖された。

タレク・S・ハッジはモンドワイス・ガザ特派員であり、パレスチナ作家同盟の会員でもある。彼はガザのアル・アズハル大学で英文学を学びました。彼は2015年にジャーナリズムのキャリアをスタートし、地元新聞ドニア・アルワタンのニュースライターおよび翻訳者として働きました。彼はエルバディ、ミドル・イースト・アイ、アル・モニターで記者を務めた。



「シオニズムはユダヤ人のあらゆる価値を裏切る偽りの偶像である。ナオミ・クライン

私たちの近い将来を映す鏡

| シモン・ペレス・ネゲブ核研究センターは、デモナ市の南東にあるイスラエルの原子力施設です。MR Online シモン・ペレス・ネゲブ核研究センターは、デモナ市の南東にあるイスラエルの原子力施設です。(写真: ウィキメディア・コモンズ)

初出: Science for the People, 2024年4月8日, Erica Jung と Calvin Wu 著 (Science for the People による詳細) | (2024年4月10日投稿)

わずか数カ月の間に1万4000人以上のパレスチナ人の子供が暗殺され、西側諸国政府の全面的な支援を受けたシオニスト占領者らによる200万人の意図的な飢餓は、私たちの合理性に関する先入観を攻撃するものである。あたかも「文明」「民主的価値観」「国際ルールに基づく秩序」など、人間の本質とは相いれない不合理なシステムの見せかけにすぎないかのようだ。しかし、私たちは、これらの崩れかけた規範や制度が、気候変動に対する人類の唯一の防波堤であると信じ込まされてきました。ガザの死のキャンプが炎上する中、2024年2月は化石燃料採掘量と世界の海面温度の両方が記録的な高さを記録しました。コロンビアのグスタボ・ペトロ大統領はCOP28中に次のように厳しく警告しました。

ガザは私たちの近い将来を映す鏡です。

したがって、そのような未来を防ぐためには、これらの一見並行する不合理の背後にある論理を理解することが非常に重要です。この記事では、パレスチナと帝国主義に関する最近の理論について詳しく説明し、米国が支配する世界資本主義システムが、生態系の限界と民衆の抵抗への影響によって引き起こされた構造的危機を解決する試みとして、どのようにして緑の帝国主義という新たな形態をとっているのかについて議論します。³ パレスチナの反シオニスト入植植民地主義は帝国主義プロセスの最前線にあり、植民者が「人民のいない土地」のテラフォーミングに向けて歩みを進める中、グリーンテクノロジーへのフェチが最も矛盾した(そして危険な)形で現れている。最後に、資本主義の下で何世紀にもわたって「進歩」が続いた後の人間と環境の悲劇を修正するための唯一の実行可能な戦略として、反帝国主義の脱成長に向けた組織化の見通しを提示します。

緑の帝国主義とは何ですか？

イスラエルの「独立戦争」、つまり1947年から1948年のナクバ戦争の末期に、シオニスト指導者たちは核物理学プログラムの確立に迅速に動きました。近年浮上したイスラエルの環境に優しい移行戦略の一環として原子力エネルギーに関するレトリックを曖昧にしたにもかかわらず、新興国のために核兵器を獲得するという同国の目標には長い間疑問の余地がなかった。ユダヤ国民基金の植樹運動を装って先住のパレスチナ住民が追放された後、核兵器製造のための土地を開発した^[5]。イスラエルが独自の技術や専門知識を持たなかったため、これは秘密作戦というよりも公然の秘密だった。米国がイスラエルの核武装について無知を装う

一方で、フランスはその建設を直接支援した。西側諸国の陰謀と曖昧さにより、イスラエルは核不拡散条約や国際規制機関の監督を逃れることができた。

よく言われることわざを使えば、イスラエルが国際機関や合法性を無視して核兵器を取得したことはバグではなく特徴だ。それは世界資本主義の氷山の一角にすぎず、商業的利益、技術独占、政治的策略が見られ、その起源はオスマン帝国時代後期のイギリス植民地にまで遡ることができます。バルフォア宣言から1936年から1939年のパレスチナ革命の暴力的弾圧に至るまで、無条件の軍事援助からイスラエルの兵器産業への資金提供に至るまで、大量虐殺の正当化から反対意見の非難に至るまで、英国の支配階級が米国とヨーロッパの従属同盟国に続いた。彼らは常にイスラエルを経済的、地政学的支配の先兵と考えてきた。

1. 植民地境界の工業化

2000年代の変わり目に、ハイテク産業への大規模な金融資本の注入により、シリコンバレーは文化的巨大企業へと飛躍し始めました。起業家精神と実力主義というリパタリアンの精神は、「西部開拓時代を飼いならず」というアメリカ資本主義の執念を引き継いでいます。現代のカリフォルニアの風味を備えたこの米国入植者の神話は、自然を人間の創意工夫とハイテク研究開発という形での科学による搾取の主要な原風景として捉えていました。それが投機的で不安定な形態をとったにもかかわらず、ハイテク資本の蓄積と一部の製品の具体的な実用性は、世界の支配層がすべて後回しにすることができたものでした。1960年代後半から数十年にわたり西側諸国の支援を受けて発展してきたイスラエルは、自らを「スタートアップ国家」として再ブランド化した。イスラエルのロビイストたちは技術科学の成果を称賛し、対象とするアメリカの聴衆に率直に語り、「開発」の意味を次のように明確に述べた。

これまでの農産物、繊維、鉱物の輸出に基づいた経済から移行し、イスラエルのハイテク輸出は政府および民間の防衛産業から始まった。例: IAI (イスラエル航空産業)、ラファエル (軍備当局)、エルビット、タディラン、エルオブ、エルタ。先進技術がイスラエル国防軍 (IDF) のみでの使用を目的とした電子防衛製品に生まれ変わったのはこれらの企業でした。イスラエルからの「実戦実証済み」製品への需要により、防衛関連製品の輸出産業が発展し、今でもイスラエルのハイテク輸出の大部分を占めています。さらに、防衛産業で利用されていた技術は、後に成長を続ける民生用電子産業でも利用されました⁶。

イスラエルの経済が戦争と抑圧の上に成り立っていると言うのは、イスラエルの科学、技術、工業化が中東と北アフリカの地域における西側諸国の利益を守ることを主な目的として築かれてきたと言うのと同じくらい誇張ではない。シオニストの実体によって半分に割られただけでなく、世界的にも。第一に、コスト削減策と

して、イスラエルは自国の兵器産業を中心に工業化を進め、依然として天文学的な額である西側からの直接軍事援助の量を削減すると同時に、イスラエルの近隣諸国を懐柔している。第二に、イスラエルの武器やその他の抑圧的な輸出品。この技術は西側支配階級の汚い仕事を隠蔽するのに役立った。イスラエルは、かつてのローデシアやピノチェト政権のチリから、今日のマルコス政権のフィリピンやモディ政権のインドに至るまで、反乱鎮圧訓練と武器供与の世界の中心地であり、西側諸国による国民や土地の略奪を歓迎する新植民政権である。第三に、経済的にも技術的にも進んだイスラエルは開発主義のイデオロギーを広めています。資本主義的搾取の犠牲者が自らブーツストラップを正しく適用できなかったことを責められるのと同じように、帝国主義的略奪の犠牲者は本質的に後進的、つまり「人種的・文化的に劣っている」ことが示され、さらに西側諸国による征服と「西側諸国」による占領を正当化している。」

事実上、イスラエルは米国帝国主義の一部であり、「軍国主義、帝国主義、入植地主義、反乱鎮圧、占領、人種差別、イデオロギー的敗北の植え付け、莫大な利益をもたらす戦争遂行とハイテク開発を組み合わせた西側権力の最も純粋な表現」として、米国帝国主義の一部である。。」⁸

2. 廃棄物の原収用と蓄積

しかし、その権力がイスラエルを通じて投影されず、一世紀にわたるパレスチナ人の苦しみを犠牲にするような「合理的な」帝国主義があり得るだろうか？ 過去6か月にわたる大量虐殺に関する経験的証拠を考慮すると、この質問は不必要に思えるかもしれない——白リン弾による絨毯爆撃と兵器による飢餓に関して、米国とその従属同盟国がベンヤミン・ネタニヤフ首相から逸脱したのはいつだろうか？ しかし、これは、西側世界支配のルーツと、帝国の地政学的、経済的、イデオロギーの傾向を拡大しようとする内在的な衝動を私たちがどのように理解するかという問題です。帝国主義理論を簡潔に述べることで、パレスチナにおける人間の危機と大規模な生態学的危機との関連性を特定し、「緑の帝国主義」の将来の展開を予測することができますでしょう。

マルクスは資本主義の内部の仕組みを解明し、それが抽象社会に及ぼす影響をモデル化したが、世界システムとしての資本主義の実際の動態、資本が空間と時間の両方でどのように不均等に蓄積されるかについて詳しく説明するには、一生涯しか与えられなかった。そして、具体的な歴史的起源を持つこの構造的決定要因が、所有者と労働者の間だけでなく、植民者と植民地化された者の間の力の不均衡をどのようにもたらすのか。しかし、帝国主義理論に対するマルクスの不屈の貢献は、いわゆる「原始的/一次蓄積」という概念に明確に表れています。ジョン・ベラミー・フォスターが詳述したように、このごちない翻訳は、より正確には「原始的収用」と呼ぶべきです。この用語は、貨幣、商品、剰余の変化を伴う、あらゆる蓄積プロセスの始まりを指します。「元の投資はどこから来たのですか？」それは、植民地征服、土地、天然資源の略奪、資本主義以前の残忍な形態の強制労働（動産奴隷など）を通じて、マルクスの洞察の本質であった。こうして資本は「頭から足の先まで、あらゆる毛穴から血と泥とともに滴り落ちて」この世にやって来るのである

現在および過去75年間、パレスチナで日常的に見られた原始収用の非常に暴力的なプロセスは、抽象的な経済モデルで簡単に捉えることができず、その結果、政治経済における決定要素としてのその役割が不注意または意図的に追いやられることになる。それでもどんな分析でも帝国主義に対処できない資本主義は、特に帝国主義を打倒しようとする人々や、何世紀にもわたって帝国主義に耐えてきた世界の大多数にとって、最終的には時間の無駄である。

したがって、戦争と大量虐殺は、単に資本主義が「変異」したり「暴走」しただけではなく、そのような運営パターンを刷り込んだ歴史から生まれました。その代表的な例は、資本主義に内在するファシズムへの傾向であり、これは西側左翼によって多く研究され、規範として広く受け入れられている。しかし、エメ・セゼールによれば、ナチスのホロコーストはヨーロッパの植民地主義が内向きになったと見るべきである[12]。また、セゼールのような思想家や戦闘員に象徴される政治的脱植民地化の限定的な成功にもかかわらず、植民地主義は世界的な植民地主義の後に新植民地主義になったことを認識することも重要である。13 「脱植民地化された」国家の名目上の独立は、米国とその従属同盟国の唯一の覇権国が第三世界に植民地のような経済状況を課しているという事実を否定するものではない。かつての第二世界諸国の多くが非開発によってその仲間入りを果たしている14。

パレスチナは社会を組織する国家を持たず、国民全員を生かし、シオニストの絶え間ない侵略から自らを守る能力もなく、日々土地窃盗、環境破壊、大量暗殺に直面しており、現在の世界階層の最下位に位置している。そこでは、アリ・カドリが「廃棄物の蓄積」と呼ぶ特定のプロセスが、帝国主義の現状を永続させる収用と連動して機能している。":

目的と手段の両方として機能するのは、爆弾の爆発であり、それに関連して人間が殺害され、地球が破壊されることです。論理的かつ不合理なことに、もし戦争で全員が死亡したら、具体的な労働を行う人は誰も残らなくなるでしょう。それにもかかわらず、戦争とそれに続く緊縮政策は、過剰生産に伴う人的資源の活用不足を解決するために人口を減らします。16

マルクスが、富を生み出す人々に対する資本主義の本質的で非合理的で正不可能な残虐性を嘆いたのに対し、人間としての労働者は「資本という巨大な車輪の下で押しつぶされている」17が、今日ではパレスチナ人、そしてイラク人、シリア人、リビア人、そしてその前のアフガニスタン人——詩的なイメージが文字通りのものとなる。

3. 緑の帝国主義の出現

したがって、私たちは、グリーンエネルギー移行の枠組みが、グローバル独占資本の利益を維持しようとする本質的に暴力的で不安定な現状のグリーンウォッシングにほかならないことを理解するために、グリーン帝国主義という新たに出現した現象に目を向けます。18 緑の帝国主義の広範なプロセスによって可能になったこの緑の移行枠組みは、どのようにして通常通りの事業を確保

オリーブの会通信 第41号(通巻47号)

し、それによってパレスチナ人の虐殺を正常化するのでしょうか？

ペドレガルとルキッチが定義する緑の帝国主義は、「周辺部の労働力、資材、エネルギーを犠牲にして、中核部の帝國的な生活様式を維持することを目的としている」。太陽光や風力などの再生可能エネルギー。水素や核エネルギーなどの誤った解決策は、エネルギーの代替ではなく、単にエネルギーの追加にすぎません。グローバル資本主義の下では、資本蓄積の需要を満たすために全体的なエネルギー使用量が急増し続けているため、化石燃料の使用を段階的に廃止するという現実的な動きはあり得ません。

このような正当化の手法は、グローバル・ノースにおける入植者の植民地主義の常態化を強化するものであり、これらのグリーンウォッシング戦略は、国内外の先住民および植民地化された土地および人々のさらなる搾取と管理を必要とするからである。また、彼らは気候変動の問題を再構成しようとしている。環境破壊の主な加害者である独占金融資本に焦点を当てるのではなく、単なる技術的な問題として捉えている。独占金融資本は、米軍、世界中にある800以上の軍事基地、ヨーロッパの従属同盟国、イスラエル、日本、そしてグローバル・サウスにおける新植民地主義の傀儡たちを通じて、無用な価値を大量生産すると同時に既存の価値を破壊する。

パレスチナの占領は、この地球規模の環境破壊蓄積の重要な歯車である21。イスラエルによるガザ攻撃の最初の2か月で、世界で最も気候変動の影響を受けやすい20カ国以上の年間二酸化炭素排出量を上回る排出量が発生した。航空機の排出物や、爆弾、大砲、ロケット弾の製造と爆発から発生するCO₂である23。総CO₂排出量のほぼ半分は、イスラエルに軍事物資を輸送する米国の貨物機、つまり収用と廃棄物の蓄積によるエネルギーを大量に消費するコンベヤーベルトからのものでした。イスラエルはまた、アグリビジネス、植林、水ソリューション、レンガ事業の専門知識を武器にしています。24 新植民地アラブ諸国は、再生可能エネルギー、アグリビジネス、水に関する環境プロジェクトを共同で実施するため、イスラエルと多数の覚書を締結している。

このような協力は、環境正常化の一例であり、「イスラエルの抑圧をグリーンウォッシュして正常化するための『環境主義』の利用」である25。米国帝国主義のグリーン化に向けた技術的および外交的成果は、ソーラーパネルとリチウム電池を備えたタンクにメルカバのディーゼルエンジンを置き換えることにほかならない。

反帝国主義の脱成長に向けて

グローバル・ノースの過剰蓄積は、ガザおよびその周辺地域における開発の遅れと「廃棄物の蓄積」によってのみ可能となります。私たちは毎日、世界資本主義システムが機能するために必要な残虐行為の全容をますます目撃しています。この悪質で不合理な地獄のようなスパイラルから抜け出す唯一の方法は、脱成長と脱蓄積のプロセスを経ることです。しかし、脱成長は、さまざまな戦略を通じて実行される国際主義的、反帝国主義的な団結なしには達成できない。多数の労働組合がパレスチナ解放闘争を支持する声明を発表しているが、労働組合全体としては、戦争機構を破壊し、生産現場で大量虐殺資本に挑戦するという、より戦闘的な戦略をまだ採用していない。兵器生産の停止は脱成長プロジェクトに直接結び

ついており、その基本原則は、利益と経済成長のために生命を破壊するのではなく、社会的生産関係の再構成を通じて生命を維持することである。

言い換えれば、労働者自身が生産手段をコントロールして、生産手段を生活の破壊ではなく社会的に有益なニーズに向けることができなければなりません。現在の制度的制約の下でそのような方向転換が不可能な場合、労働者はパレスチナや他の地域の人々との原則に基づく連帯のもと、自らの物質的利益に反して行動する用意ができていなければならない。帝国主義世界システムの階層内における、搾取される側であると同時に受益者である北側の労働者の立場も、考慮すべきもう一つの矛盾である。

経済のさまざまな部門にわたる労働者階級による広範な調整は、手段であると同時に目的でもある。それは労働者がより過激な行動を取る能力を与えるだけでなく、意味のある意味での脱成長を達成するためにも必要である。反帝国主義の脱成長とは、究極的には世界経済を「統合された多面的な計画経済への移行であり、それは複数のレベルを網羅し、国民全体に利益をもたらす方法で経済剰余を動員することを可能にする社会的統制を実施することになるだろう」としている。

その一方で、国家主導による強力な計画的脱成長がない中で、国際労働連帯の例がいくつか現れている。ちょうどこの2月、インドの港湾労働者は、イスラエルに向かう「武器化された貨物」の積み下ろしを拒否した。2年前、アメリカ通信労組のコールセンター労働者は、フィリピンへの連帯代表団旅行を企画し、以下の共通の懸念事項について話し合った。そのような行動が労働者自身によって実行できない場合、これはパレスチナ・アクションのような活動家グループに委ねられる。パレスチナ・アクションは武器製造会社エルビット・システムズに対して一連の持続的な直接行動を実行し、エルビットに自社製品の売却を強制した。英国タムワースにある「エリートKL」工場。利益の減少、治安支出の増加、サプライチェーンコストの上昇が、パレスチナ行動の努力を認める理由となった。そのような戦略に加えて、長期的に権力を構築するには人々が革命組織に参加することを約束することが重要であり、これらの組織が「構造を変革し、パラダイムを転換し、私たちが住む世界を再構築するために人々を動員するための調整された行動計画」の一環として連合を構築する。

社会民主主義左派が愛するグリーン・ニューディールに包含される一連の環境に優しい社会改革を訴えるだけで、私たちは支配階級が仕掛けた2つの罠にはまってしまう。第一に、私たちは彼らが血に濡れた緑色のパンくずを（北部の）プロレタリアの勝利であると主張しながら、彼らの蓄積した利益を緑色に塗ることを可能にします。第二に、私たちは、パレスチナ人の権利を説教し、その権利を消滅させる武器や技術の規定を正当化する社会民主黨員によって設定された言説への表明と同意を正当化します。したがって、気候変動活動家も反戦活動家も同様に、帝国主義の環境に優しい戦略がどのように行われるかを認識しなければなりません。独占資本が先住民の土地や天然資源をますます収用するために利用しており、その結果、CO₂排出量が増加し、パレスチナ人の子供たちが死亡している。結局のところ、パレスチナ解放なくして気候正義はありません。



ガザの虐殺に抗議する米国学生の行動が増大

コロンビア大学のガザ連帯キャンプ。(写真:@maryamalwan TW ページより)

2024年4月22日 ブログ、ニュース、ビデオ

F パレスチナ・クロニクル・スタッフより

抗議活動は、4月17日水曜日の早朝、コロンビア大学の芝生にテントを張った数人の学生から始まった。

コロンビア大学は月曜日、最近の親パレスチナデモ参加者の逮捕に端を発するニューヨークキャンパスでの騒乱が続いていることを受け、授業をオンラインで実施すると発表した。

全米のさまざまな大学キャンパスで緊張が高まる中、法執行当局は月曜日、イエール大学でも親パレスチナ人の抗議活動参加者を逮捕した。

それはいつ始まりましたか？

抗議活動は、4月17日水曜日の早朝、コロンビア大学の芝生にテントを張った数人の学生から始まった。

伝えられるところによると、コロンビアのキャンプは、ミヌーシュ・シャフィク大学学長が反ユダヤ主義に関する議会公聴会に出席したのと重なった。

しかしキャンパス内ではここ数カ月間、怒りが高まっている。

10月7日にパレスチナ抵抗勢力が実施した軍事作戦の数日後、イスラエルによるガザ戦争への懸念を表明し、飛び地を「野外刑務所」と表現する声明に署名した学生らがインターネットで公開され非難されたと伝えられている。

声明には「戦争と死傷者に対する責任の重さは、間違いなくイスラエル過激派政府と、イスラエルの侵略、アパルトヘイト、入植者による植民地化に資金を提供し、断固として支援している米国政府を含む他の西側政府にある」と述べられている。

声明はコロンビア大学に対し、「責任をしっかりと果たし、テルアビブのコロンビア・グローバル・センターやテルアビブ大学とのデュアル・ディグリー・プログラムの中止を含め、アパルトヘイトイスラエルとの関係を断つよう求めた」と述べた。コロンビアのコミュニティは、正義、平和、人権という私たちの核となる価値観に照らして、イスラエルとの関係を再評価しなければなりません

ん。」

学生らがガザで停戦を求める抗議活動を行ったと伝えられたことを受け、同大学は11月、学生団体「パレスチナの正義のための学生たち」と「平和のためのユダヤ人の声」の結成を一時停止した。

なぜ抗議活動が起こっているのでしょうか？

学生らはコロンビア大学に対し、イスラエルによるパレスチナ占領から利益を得ている企業の金融資産を売却するよう要求している。

学生たちの要求は何ですか？

パレスチナの正義のためのコロンビア学生団体の声明によると、学生たちは以下のことを要求している。

イスラエルのアパルトヘイト、大量虐殺、パレスチナ占領から利益を得ている企業から寄付金を含むすべての資金を剥奪する。

コロンビアのすべての金融投資に対する完全な透明性。

パレスチナ解放運動で懲戒処分または解雇されたすべての学生と教職員に対する恩赦。

これまでに何が起こったのでしょうか？

学生抗議活動の陣営は一夜にして拡大し、数百人の学生が現れてテントを設置した。

木曜日、シャフィク大統領は、ニューヨーク市警察(NYPD)がキャンプを掃討し、大量逮捕を行う権限を与えられたと通告した。

警官らがキャンパスに群がり、学生らが設置したキャンプを排除した後、100人以上の抗議参加者が拘束された。

その後、学生たちは別の芝生に移動し、別のキャンプを開始した。

伝えられるところによると、シャフィク氏はニューヨーク市警察に対し、「キャンプとそれに関連した混雑が大学の実質的な機能に明白かつ現在の危険をもたらしていると判断した」と書簡で述べたという。

学生運動は逮捕を受け、「私たちはコロンビア大学による大量虐殺への直接の共謀と、自国の学生を標的にして逮捕したことを支持しない」と述べた。

コロンビアキャンプメントテレグラムチャンネルによると、抗議活動は拡大し続けており、「何百人もの学生、

オリーブの会通信 第41号(通巻47号)

教職員、地域住民がキャンプに参加」しているという。テントが設置され、食事の提供やお互いのサポートのほか、ティーチンや講演者による講演も行われています。「私たちは唱え、歌い、教え、見守り、祈り、本を読み、議論し、パンを裂いています」と生徒たちは言います。ホワイトハウスは以下の点を重視しています：

ジョー・バイデン大統領は日曜、ユダヤ教の過越祭を記念する声明で「沈黙は共犯だ」と述べた。「ここ数日でも、ユダヤ人に対する嫌がらせや暴力の呼びかけが見られました。このあからさまな反ユダヤ主義は非難すべきものであり、危険であり、大学のキャンパスや我が国のどこにも、絶対に居場所がありません」と彼は付け加えた。

バイデン氏は、政権が「反ユダヤ主義に対抗するための史上初の国家戦略を積極的に発言し、積極的に実行し、ユダヤ人コミュニティの保護に連邦政府の総力を投入する」と述べた。

同氏の発言は、週末にコロンビア大学でユダヤ人学生に対する嫌がらせがあったとの報道があった後に行われたと伝えられている。

ホワイトハウス副報道官アンドリュー・ベイツ氏も声明で次のように述べたと伝えられている。

「すべてのアメリカ人は平和的に抗議活動をする権利があるが、ユダヤ人学生やユダヤ人コミュニティを標的とした暴力や身体的脅迫の呼びかけは、あからさまに反ユダヤ主義的で非良心的で危険であり、大学のキャンパスやアメリカ国内のどこにも、それらは絶対に許されるべきではない。」

「そして、特にホロコースト以来、ユダヤ人に対して行われた最悪の虐殺を受けて、テロ組織のレトリックを繰り返すことは卑劣だ。私たちはこれらの声明を最も強い言葉で非難します」と彼は付け加えた

学生運動の反応

学生運動は日曜日の声明で、「私たちは虐殺からの撤退を求めるコロンビア大学の学生活動家である」と繰り返した。

「私たちは、私たちが代表していない扇動的な個人に焦点を当てたメディアの気を散らすことにイライラしています。全国の大学で私たちの運動はあらゆる人間の命を大切にするという点で団結している」と声明は付け加えた。

「私たちのメンバーは、政治的動機に基づいた暴徒によって誤認されました。私たちはマスコミに暴露され、ニューヨーク市警に逮捕され、大学からは締め出されました。私たちは、コロンビア大学が私たちの授業料や助

成金を死から利益を得る企業に注ぎ込むことにもはや加担することができないため、故意に自らを危険にさらしています。

「私たちは、ガザでのパレスチナ人の大量虐殺に反対する私たちの声を届けることを要求します。

「私たちはいかなる形態の憎しみや偏見も断固として拒否し、学生の間で形成される孤独な存在を混乱させようとする学生以外の者たち、つまりパレスチナ人、イスラム教徒、アラブ人、ユダヤ人、黒人、そして親パレチナ人のクラスメートや同僚たち、つまり私たちの多様性を代表する人々に対して警戒を続けます」

「私たちは平和に過ごしてきました。私たちは解放を求めて公民権運動と反戦運動の足跡をたどります。」

コロンビア大学当局からの最新情報

ミヌーシュ・シャフィク大学学長は月曜日の声明で「リセットが必要だ」と述べた。

「さまざまなコミュニティの学生が自分たちの安全に対する懸念を伝えており、私たちは安全上の懸念に対処するために講じる追加の措置を発表しました」とシャフィク氏は述べた。

彼女は、「中東では、人類に壊滅的な影響を与えるひどい紛争が起こっている。多くの人が深い精神的苦痛を経験していることを私は理解しており、コロンビア大学当局が行動を起こすことでこの問題を軽減できるように支援してほしいと考えています。」

「しかし、あるグループに条件を決めさせたり、彼らの見解を前進させるために卒業などの重要な節目を妨害しようとすることはできません。」

「憎しみを和らげ、私たち全員に次のステップを検討する機会を与えるために、月曜日にすべてのクラスがバーチャルで開催されることを発表します。リモートで勤務できる教職員はリモートで勤務する必要があります。重要な職員は大学の方針に従って出勤する必要があります。私たちの希望は、キャンパスに住んでいない学生はキャンパスに来ないことです」とシャフィク氏は付け加えた。

シャフィク氏はさらに、「今後数日間、学部長、大学管理者、教員からなる作業グループがこの危機の解決に向けて努力するだろう」と続けた。

大学が実施している追加の「措置」には、「パトロールの強化…合計111人の安全要員の追加」や「追加の民間警備員による境界警備の強化」などがある。



2024年4月15日UAWC

4月12日から15日にかけて、イスラエル人入植者の大群がパレスチナヨルダン川西岸で大規模な暴力的なポグロムを実施した。武装イスラエル占領軍の保護下にあった1,500人以上のイスラエル人入植者が、ヨルダン川西岸7県(ラマツラ、ナブルス、サルフィット、ベツレヘム、アル・ハリル[ヘブロン]、チューバス、ジェニン)。入植者たちは意図的にパレスチナ人の土地、家、車両、財産を破壊した。100人以上のパレスチナ人が負傷。そしてパレスチナ人2人を殺害した。攻撃は進行中であるため、被害の全容はまだ記録されていませんが、初期推定では少なくとも1,000万ILSの直接被害が示されています。

入植者らは全焼から部分焼までさまざまな程度で、少なくとも85軒の家を焼いた。11以上のプラスチック製の水タンクが損傷した。そして185台以上の乗用車、トラック、農業用トラクターを焼き払った。農業分野では、少なくとも20棟の羊小屋が焼かれるなどの被害が出ている。少なくとも200頭の羊が盗まれた。そして50頭以上の羊が殺され屠殺されました。2つの養鶏場が部分的に焼かれ、オリーブ圧搾機が部分的に損傷し、木が焼けて損傷した。

対象となるコミュニティには次のものが含まれます。

ラマラ：アル・ムガイイル、トゥルムスアイヤ、キルベット・アブ・ファラー、カフル・マリク、アイン・サミア、アル・ジャラズン・キャンプ、アル・マズラ・アル・ガルビヤ、シルワド、シンジル、デリ・ディブワン

ナブルス：ドウマ、クスラ、ブリン、アルサウィヤ

サルフィット：デリ・バルアウトとカフル・アルディク

ベツレヘム：ダル・サラール、ジャブア、キルベット・バルート、 Beit・アスカリア

アル・ハリル(ヘブロン)：タルクミア、マサフェル・ヤッタのマグハイヤー・アル・アベド

チューバスとジェニン：アル・マレー、ナバ・ガザル、アイン・アル・バイダ・ジャンクション

2023年10月7日にパレスチナのカザ地区でイスラエルによる虐殺が始まって以来、イスラエル入植者はヨルダン川西岸のパレスチナ人コミュニティに対するテロ行為を強化している。不処罰に勇気づけられ、政府の武装強化を受けて、これら入植者らは組織的にパレスチナ人コミュニティを攻撃し

ており、ここ数日の攻撃は入植者による侵略の長年のパターンにおける暴力のピークを表している。イスラエル入植者のテロ攻撃のこの猛攻撃を単独で捉えることはできません。それは、イスラエル入植者の植民地主義という広範かつ現在進行中の現象の一部である。この抑圧システムは、パレスチナ人から土地と生計手段を剥奪することを目的としており、その最終目標は、その土地を盗むために歴史的なパレスチナから彼らを追放または排除することである。

OCHAは、2023年10月7日から2024年4月8日までの間に、パレスチナ人に対するイスラエル人入植者の攻撃727件を記録しており、その結果、パレスチナ人の死傷者(72件)、パレスチナ人所有の財産への損害(578件)、または死傷者と財産の損害の両方(77件)が発生した。同時期に、入植者の暴力と立ち入り制限により、少なくとも206世帯(1,244人)のパレスチナ人世帯が強制移住させられ、そのほとんどが603人の子供を含む牧畜家族であった。2023年10月7日から2024年4月13日までに、ヨルダン川西岸では463人の殉教者と少なくとも4,750人の負傷者が発生した。

イスラエル占領軍の絶え間ない暴力、継続中のヨルダン川西岸のイスラエル軍による封鎖、少なくとも759箇所の移動妨害の制裁を加え、こうした入植者の攻撃はパレスチナ人の権利を組織的に剥奪し、農村社会が収穫や土地への到達を暴力的に妨害している。これらの攻撃は、土地、家屋、重要なインフラを破壊することで、命を危険にさらすだけでなく、パレスチナ人の暮らしを脅かします。イスラエル入植者の攻撃は、ヨルダン川西岸の最大かつ最も肥沃な地域であり、イスラエル入植者拡大の主な標的である「エリアC」を戦略的に標的としている。ヨルダン川西岸の歴史的な食糧庫として、「エリアC」とラベル付けされた土地は、パレスチナ人の生計、農業、牧畜、食料システムにとって重要です。

これらの恐ろしい入植者の攻撃とパレスチナ人の生活を破壊しようとするあらゆる試みに直面して、UAWCはパレスチナ人が今後も強く毅然とした姿を現し続けることを断言する。UAWCは地元の農民、農業委員会、村議会、およびより広範なコミュニティと協力して、被害の程度を評価し、再建に向けた措置を調整しています。



パレスチナ日誌

10月6日

- ・入植者、ヤスフのオリーブの木 40 本を根こそぎ倒す
- ・占領軍、エルサレム旧市街の市民 3 人を逮捕
- ・占領軍、アルビレの両替店店長を逮捕
- ・占領軍がハワラを閉鎖、銃撃事件の犯人を捜索中とされる
- ・占領軍に包囲され、殉教したハワラ作戦の実行犯
- ・イスラエル特殊部隊がベツレヘムから 3 人の若者を誘拐
- ・イスラエルブルーラインを越えたレバノンのインフラ」の撤去
- ・イスラエル、ヨルダン川西岸とガザの閉鎖を決定
- ・サウジアラビア、アル・アクサ・モスク襲撃を非難
- ・ハワラで入植者の銃弾に倒れた若者
- ・入植者がミフマスの町を襲撃
- ・玉座の最後の日に - 旧エルサレムでの入植者のための行進と祈り
- ・占領軍、ザアタラ検問所とフワラ副入口を閉鎖
- ・占領軍がナブルス南部でオリーブを摘む一家を阻止し、数時間拘束した。
- ・5 万人がアル・アクサ・モスクで金曜礼拝を行う
- ・反定住週刊誌『デラスティア』での負傷者と逮捕者
- ・アル・アクサを襲撃し、殉教者の写真が描かれた横断幕を撤去した。
- ・ペイト・ダジャンのデモ行進に対する占領軍の弾圧における窒息死傷と青年の逮捕
- ・土地は没収された - シルワンの人々はワディ・アル・ラババの土地からオリーブを摘んでいる
- ・占領軍、シェイク・ジャラーでの抗議デモ鎮圧中に 5 人の市民と活動家を逮捕

10月7日

- ・ジェニン北東部アルブーナでの占領軍との衝突で窒息死した負傷者
- ・ジェニン大隊、イスラエルのいかなる侵略も撃退する用意があることを確認
- ・アル=エイザリヤで対立中の若者が占領軍の銃弾により負傷した。
- ・ブレイジ・キャンプの東で、占領軍の銃弾により若者 2 人が死亡、他も負傷した。

10月8日

- ・ガザから数十発のロケット弾が発射され、レジスタンスの戦闘員が入植地に侵入した。

- ・アル=カッサム旅団総司令官ムハンマド・アル=デイフ "アル・アクサの洪水" 作戦の開始
- ・イスラエル軍がガザ地区攻撃開始を発表
- ・"アル・クッズ旅団"、対イスラエル戦への "アル・カッサム" 参加を発表
- ・地域評議会のシャアール・ハネゲフ議長が抵抗勢力の銃撃で死亡した。
- ・ヒズボラ我々はパレスチナで起きていることを注視しており、指導者と直接連絡を取っている
- ・ネタニヤフ首相我々は戦争状態にあり、必ず勝利する
- ・大統領パレスチナ人には自衛権がある
- ・ハアレツハマスが数カ月前から攻撃の準備をしており、ガザ侵攻を否定しない
- ・ヘブライ語メディア午前中の作戦開始以来、イスラエル人 40 人が死亡、740 人以上が負傷
- ・アル=サラヤ、"アル・アクサの洪水" 作戦の一環として兵士の捕獲を発表
- ・占領軍のガザ侵攻で 198 人が殉職、1,600 人以上が負傷
- ・ガザの保健衛生、占領軍によるインドネシア病院と救急車への攻撃を糾弾
- ・入植地内の人質... 占領軍側の死者 300 人以上、負傷者 1,100 人以上
- ・アル・アロウリイスラエルの上級将校が捕まった
- ・ヤスフへの入植者襲撃で負傷者、家屋 2 棟焼失
- ・ヨルダン川西岸地区で 3 人の殉教者と負傷者
- ・ヨルダン川西岸地区で 3 人の殉教者と負傷者
- ・アル・カッサムがテルアビブに向けて 150 発のミサイルによる攻撃を発表
- ・2 重大事件：ヘブロンでの対立で 15 人の若者が負傷
- ・テルアビブとその周辺へのミサイルでイスラエル人 5 人が負傷
- ・ガザへの侵略と爆撃の結果、232 人の殉教者と 7,000 人の負傷者
- ・イスラエル占領軍の銃弾によりヘブロンで 2 人の殉教者
- ・エルサレムで占領軍と対峙した際の銃弾による傷と窒息
- ・ガザ沖での占領船による激しい砲撃
- ・カタールは国際社会に対し、イスラエルが国際法に違反する行為をやめるよう、緊急に行動するよう求める。
- ・イスラエル軍は、アル・アクサ・フラッド作戦におけるナハール旅団司令官の殺害を発表。
- ・アルクッズ旅団戦闘はまだ続いており、戦闘員の士気も高まっている。
- ・ネタニヤフ首相ガザを瓦礫にする
- ・"ライオンズの家" はヨルダン川西岸のパレスチナ人に入植地を

襲撃し、対決するよう呼びかける

- ・ナブス北西部ブルカでの占領軍との対立による負傷者
- ・イスラエル軍ガザから 3000 発以上のロケット弾が発射された
- ・ナブス西部のデイル・シャラフ近郊で、若い男性が占領軍の銃弾により死亡した。
- ・イスラエル内閣は “ ハマスとイスラム聖戦の軍事能力を破壊する ” 決定を下す
- ・イスラエル軍がガザ地区の軍事封鎖を宣言
- ・レバノンからヘルモン山に向けて迫撃砲弾が発射された。
- ・ガザの健康状態: ガザに対する侵略の結果、313 人が殉教し、1,990 人が負傷した。
- ・多くの閉鎖 - ヨルダン川西岸の道路事情
- ・ヒズボラ、ヘルモン山のイスラエル軍施設 3 カ所を標的と主張
- ・占領軍ヨルダン川西岸地区のハマス活動家 19 人を逮捕
- ・ジキム・ビーチ付近で銃撃戦があり、5 人のレジスタンスが死亡した。
- ・ジキム・ビーチ付近で銃撃戦があり、5 人のレジスタンスが死亡した。
- ・アル=カッサム旅団、「ガザ包囲網」入植地への戦闘員投入を発表
- ・占領軍、カラマ交差点開通から撤退
- ・占領軍がガザ国境のコロニー住民を避難させる
- ・イスラエルマフケイム」付近でレジスタンス戦闘員が車両を制圧、逮捕される (ビデオ)
- ・救済機関 : 20,300 人の市民がガザの UNRWA の学校に避難した。
- ・ “ アル・アクサの洪水 ” 2 日目 ... 320 人の殉教者
- ・ヘブロンで対立、市民 2 人が占領軍の銃弾で負傷
- ・ガザ : 殉教者 370 人、負傷者 2,200 人
- ・イスラエル人死者 700 人

10月9日

- ・アル=カッサム旅団、軍事拠点「キスフィム」の制圧を発表
- ・アメリカの報道イスラエル、エジプトにイスラエル人解放の仲介を依頼
- ・ガザ地区周辺の 5 つの入植地の避難
- ・大虐殺 - バイト・ハヌーンで一家 17 人が殉教
- ・シェルターとして使用 - 国連学校を占領の標的に
- ・アル・カッサムが “ アル・アクサの洪水 ” の戦いへの空軍の参加を明らかにした。
- ・更新 - イスラエル人 659 人死亡
- ・エルサレムのシェイク・ジャラー地区の人々に対する入植者の度重なる攻撃
- ・エルサレムのシェイク・ジャラー地区の人々に対する入植者の度重なる攻撃
- ・ギャラント、北部国境に隣接する家屋の避難準備を指示
- ・米軍がイスラエル近郊に空母を移動させ、ワシントンの支持を示す
- ・家族に対する侵略と虐殺の 2 日目に 100 人以上の殉教者
- ・カランディーヤでの占拠による火災で殉職者 2 名、負傷者 9 名
- ・イスラエルの推定 : 150 人から 200 人がガザに誘拐された
- ・占領軍はハマスの海軍司令官を捕らえ、ガザの東に 100 トンの爆薬を投下した。
- ・ニューヨークでハマスとレジスタンスを支持するデモ。
- ・西岸で 7 人の殉教者、一人はベイタの入り口で占領軍に撃たれた。

- ・ミサイルがアシュケロンとベンゲリンオン空港に
- ・イスラエルはフェスティバルの現場で 260 の遺体を回収した。
- ・ガザで家屋やモスク、街頭への爆撃で殉教者と負傷者
- ・ヘブロンで、ブルドーザーを使って作戦を行おうとした青年が、殉教。
- ・タイ、12 人の市民がイスラエルで殺され、11 人が誘拐された。
- ・西岸での複数の逮捕者
- ・アルアクサ洪水作戦の 3 日目、ガザで 493 人の殉教者、西岸で 15 人の殉教者

10月10日

- ・イスラエルは野党を含めた非常事態政府をつくると発表。
- ・ヘブライ語の情報筋、スタロットで衝突
- ・イスラエル : ハマスによる被拘束者は、130 人以上
- ・軍の主張、ミサイルをもって侵入しようとした青年を銃撃
- ・イスラエル 30 万の予備役の動員
- ・イスラエルは、15 の入植地から完全な撤退を発表。
- ・アシュケロンとアシュホッドで二人の負傷者。
- ・入植者たちは、サルフィットの西で、実弾射撃で農民を追い出した。
- ・ジャバリアキャンプの市場の爆撃で 50 人の殉教者
- ・アリエルの交差点の入り口で、ひき殺しを企てたとして、青年が銃撃された。
- ・イスラエル死者は 800 人に
- ・ガーナム、職場から追放されたガザの労働者数十人を内部に確保
- ・土曜日いらいガザで 560 人の殉教者
- ・占領軍は、レバノンの村を砲撃した。
- ・エルサレム周辺のロケットの落下で 9 人が負傷し、内 3 人が重症
- ・アルコッズ旅団が、レバノン国境での二つの作戦の責任を発表。
- ・ジャバリアキャンプの中心部でのイスラエルによる虐殺で 50 人が殉教。
- ・ヒズボラが、イスラエルの爆撃で一人のメンバーが殉教したと発表。
- ・軍は、イスラエル人に 72 時間シェルターにとどまるように呼び掛けた。
- ・ハマス : 我々は停戦の協議にオープンであり、十数人の二重国籍者を拘束していると
- ・レバノン国境に沿った入植地はゴースタウンに変わっている。
- ・占領軍は、西岸で 24 人の市民を逮捕した。
- ・占領軍は、38 人の戦士を発表。
- ・UNRWA の学校にいる避難民は 13 万 7 千人
- ・18 人のタイ人がイスラエルとハマスとの衝突で殺された。
- ・占領軍はイスラエルでハマスのメンバーの 1500 の遺体を発見した。

10月11日

- ・占領軍 : 我々は国境のフェンスを完全にコントロールしている。
- ・占領軍 : ジキムのレジスタンス戦士を標的にした主張。
- ・ハニエ : 戦争が終わるまで捕虜問題は論議しない。
- ・ガザと西岸で 788 人の殉教者と 4100 人の負傷者
- ・占領軍はラファール検問所を爆撃
- ・ヘブロン南部で入植者の襲撃を受け、市民とその妻、子供が打撲を負った。
- ・ガザで 2 人のハマス政治局員が殉教
- ・アル・アロウブでの占領軍との衝突で、負傷者



エルサレムもアッコも、我々はヤッファ側だ
私たちはガザの胎児の中心にいる
私たち一人ひとりが何千もの花を咲かせます
イチジクの葉は私たちの中で枯れることはありません
真実はあなたを恥じたことも、恐れたこともあります
私たちは信仰と信念を持って育てられてきました

私たちは黙りません、あきらめません、いいえ
ダメダメダメ
私たちはパレスチナに住むためにあなたのために
犠牲になります
パレスチナは私の土地です

私たちはそれを傷として、あるいは希望として抱
えている
ダメダメダメ
そして私たちは復活までそこに留まります
パレスチナは私の土地です

あなたの太陽が私たちの希望を照らしますよう
に
そしてあなたの子供たちは笑顔で眠っています
あなたが私たちに電話してくれたら、あなたが繁
栄しているのを見ましょう
家も庭も再建される

私たちは苦しみにもかかわらず、あなたたちを国
家として回復させます
みんなで一緒に歌います

私たちは黙りません、あきらめません、いいえ
ダメダメダメ
私たちはパレスチナに住むためにあなたのために
犠牲になります
パレスチナは私の土地です

私たちはそれを傷として、あるいは希望として抱
えている
ダメダメダメ
そして私たちは復活までそこに留まります
パレスチナは私の土地です

<https://lyricstranslate.com>
youtubeでFalasteen Biladi
で検索で『』聞くことができます



おいしいパレスチナ

カフタ・ビ・バンドーラ

(パレスチナ風ひき肉のトマトソース煮)

ラム肉にハーブ、玉ねぎ、スパイスを加えて、この古代料理の最もジューシーなバージョンを作ります。

レシピの詳細

肉の場合：

中くらいのジャガイモ 4 個 (約 1 1/2 ポンド、680g)、皮をむき、厚さ 1/2 インチの輪切りにします (注を参照) エクストラバージン オリーブオイル 大さじ 1 (15ml)、パーミチェリ用にさらに追加

ダイヤモンド クリスタル コーシャー ソルトまたは上質な海塩

3 1/2 オンス (100g) のピタパンまたは皮のない白パン、ざっくりちぎったもの (ゆるく詰めたカップ約 2 杯分) 中型 (6 オンス ; 170g) のトマト 1 個 (芯を取り、粗くさいの目に切ったもの)

黄玉ねぎ 1 個 (6 オンス ; 170g)、粗くさいの目に切ったもの

ニンニク 中 2 片

アナハイム、ハラペーニョ、セラーノなどの茎と種を除いた新鮮な青唐辛子 1 本 (オプション)

コリアンダーの葉と柔らかい茎のみじん切り 大さじ 2

平葉パセリの葉と柔らかい茎のみじん切り 大さじ 2

オールスパイス粉末 小さじ 1

粉末シナモン 小さじ 1

挽いた黒コショウ 小さじ 1/2

グラウンドクミン 小さじ 1/2

コリアンダー 小さじ 1/2 (お好みで)

2 ポンド (900 g) のひき肉 (牛肉、子羊肉、子牛肉、またはその組み合わせ)、脂肪分 20% が望ましい (注を参照)

ソースと組み立て方：

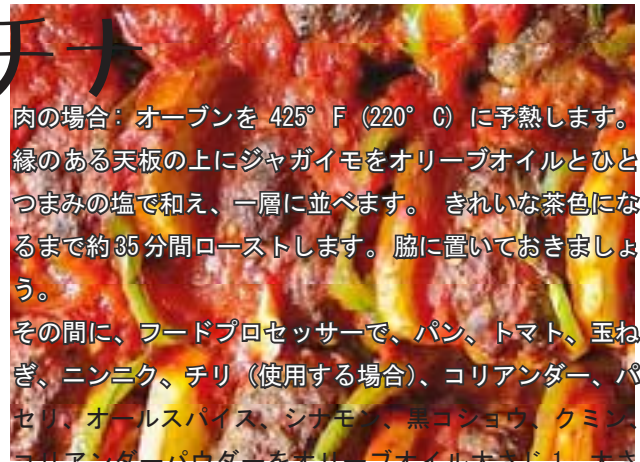
皮をむいたトマトを丸ごと 28 オンス (794 g) 缶、手で、またはポテトマッシャーで果汁と一緒に砕きます。

エクストラバージンオリーブオイル 1/4 カップ (60ml)

にんにく 中 2 片 (砕いたもの)

コーシャーまたは海塩と挽きたての黒コショウ

中型のピーマン 2 個 (約 5 オンス、各 142g)、ヘタを取り、種を取り、厚さ 1/4 インチの輪切りに横にスライスし窠す。



肉の場合：オーブンを 425° F (220° C) に予熱します。縁のある天板の上にジャガイモをオリーブオイルとひとつまみの塩で和え、一層に並べます。きれいな茶色になるまで約 35 分間ローストします。脇に置いておきましょう。

その間に、フードプロセッサーで、パン、トマト、玉ねぎ、ニンニク、チリ (使用する場合)、コリアンダー、パセリ、オールスパイス、シナモン、黒コショウ、クミン、コリアンダーパウダーをオリーブオイル大さじ 1、大さじ 1 (9g) と混ぜ合わせます。) ダイヤモンド クリスタル コーシャー ソルト (上質な海塩の場合は、容量の半分または同じ重量を使用します)。粗いペーストが形成されるまで、必要に応じて側面をこすり落とす。

大きめのミキシングボウルにひき肉と加工野菜、スパイスを入れ、完全に混ざるまで手でよく混ぜます。

肉混合物を幅 3 インチ、厚さ 3/4 インチのパティ (約 15 ~ 18 枚) の形に成形し、縁のある 2 枚目の天板に並べます。表面にきれいな焼き色が付くまで約 15 分焼きます。脇に置いておきましょう。

ソースと組み立て方：中くらいのミキシングボウルに、砕いたトマトとそのジュースを、オリーブオイルとニンニク、1/2 カップ (118ml) の水と一緒に混ぜ合わせます。塩とコショウで味付けします。

ガラスのボウルに砕いたトマトとオリーブオイルとニンニクをトッピング

9 x 13 インチの長方形のグラタン皿、または 10 インチまたは 11 インチの楕円形のグラタン皿に、カフタパティを直立した屋根板状のパターンで並べ、ジャガイモのスライスとピーマンの輪切りを交互に置きます (約 15 ~ 20 個だけ必要です) ジャガイモとピーマンをそれぞれスライスし、余分なものはスナック用にとっておきます。カトファの天板に溜まった汁を加え、トマトソースを全体に注ぎます。

ソースが泡立って少しとろみがつき、ピーマンの部分が茶色になるまで、約 25 分間焼きます。

グラタン皿で調理されたカフタ

Serious Eats / 柿シュ舞

春雨ライス、白米、焼きたてのピタパン、あるいはその両方と一緒に召し上がりください。

ご飯の入ったボウルの隣にグラタン皿に入ったカフタを上から見た図。



4月19日著名なフェミニスト学者ナデフ・シャルーブ
＝ゲヴァルキアンが逮捕された



釈放された北部で拘束されたパレスチナ人は拷問を受け、虐待されていた。



4月14日北部の家に戻ろうとした人々がイスラエル軍
に銃撃された



コロンビア大学でのガザに連帯するキャンプ

今号の内容

イスラエルによる虐殺が『続き、抗議が世界に拡大』・・・1
 『出て行け動物たちよ』。。。。。。4
 私たちの近い未来を映す鏡。。。。。。6
 米国学生の抗議行動が拡大。。。。。。9
 大規模な入植者の歩具口ム。。。。。。11
 パレスチナ日誌。。。。。。12
 パレスチナの愛した歌。。。。。。14
 おいしいパレスチナー。。。。。。15
 トピック。。。。。。16



4月21日東京池袋のデモ



4月21日の渋谷での虐殺にプライドはない



4月3日テルアビブでのネタニヤフへの抗議行動